

クリスマス祭 2025. 12. 20

終業式にさきがけて、本校恒例のクリスマス祭が行われ、キリストの誕生をお祝いするとともに、2学期に頑張った生徒諸君をねぎらいました。

クリスマス祭ですから、プログラムのあちこちで、キリストの誕生をテーマとした映像を観たり、キリスト教を研究するロザリオ会のメンバーによる劇を楽しんだり、皆でクリスマスキャロルを歌ったりし、それを通じてキリストの誕生に思いを馳せました。

また11月に行われたバザーについての報告もありました。実行委員長による挨拶や益金の寄付先の発表、広報セクション長によるアンケート結果の報告、次期実行委員長の挨拶がありましたが、発表者はいずれも堂々と発表し、多くの後輩の良きロールモデルになったと思われます。加えて、今年初めての試みとして、例年終業式の一環として行っている表彰をクリスマス祭に組み込みました。祝賀ムードの中、30名近い生徒が登壇して賞状を伝達され、会場からは祝福の大きな拍手が送られました。

中盤にはグリークラブの生徒が歌い、ビューグラーズ（吹奏楽部）と教員有志のバンドにより演奏が披露されました。教員バンドはここ数年の出し物として定着しつつありますが、それでも意外な先生が意外な楽器の腕を披露するこの場面は人気があり、会場は大いに盛り上がりました。

最後は校長が「ポインセチアの由来」などクリスマスに関する講話をした上で、ゲームをしました。校長は黒の修道服からサンタの格好に着替え（「似合ってる」の声多数）、ゲームを取り仕切れます。各学年から抽選で選ばれた代表6名が登壇し、横一列に並んで校長の指示で順番に違うジェスチャーをし、間違えたら降壇するというもので、最後まで残った生徒に商品が手渡されました。これがまた盛り上がり、ホールは拍手と歓声に包まれました。そして締めくくりとして、本校生徒が作詞・作曲し、昨年のクリスマス祭で3人が歌ったオリジナル曲『命に光を』のプロモーションビデオが流れました。他者への思いやりや友情の大切さを歌ったこの曲は、優しい歌詞と親しみやすいメロディで好評を博しました。そこでアベット修道士が3人の歌う姿を動画撮影し、学校風景を織り交ぜつつ、学校のプロモーションビデオとして編集しました。このビデオは今年5月に完成し、以来、各地区の学校説明会、オープンスクール、ラ・サールツアーハウスの開始前に流してまいりましたが、生徒に対しては今回初公開となりました。ビデオには本校生徒がたくさん出て来ますので、そのたびに会場は沸き、曲が終わると万雷の拍手が巻き起こりました。

2時間あまりでクリスマス会はお開きとなり、その後校長と生活指導部長が講話をして終業式が終わり、各クラスで終礼をした後、生徒諸君は全国へ帰って行きました。



校長を中心とした教員バンドとビューグラーズの演奏



オープニング 高2生徒によるピアノ演奏



クリスマスバスケットバザー 委員長挨拶



バザー 広報セクション長の報告



バザー 次期実行委員長挨拶



ロザリオ会による聖劇 カーテンコール



表彰式



グリー／ビューグラーズ／教員バンド演奏



「ジングルベル」を齊唱

